

□第2次伊勢市農村振興基本計画における指標の実績値・現状値を踏まえた検証について

【テーマ】皆が誇りを持ち“伊勢”を感じる持続可能な農業と農村づくり

目標	施策の基本方針	具体的な振興施策	指標	《一》数値指標なし						評価 (《○》達成、《△》おおむね達成、《×》未達成)	対応する予算事業				
				2017年度 (2016実績値)	2027年度 (目標値)	2018年度 (平成30年度)	2019年度 (令和元年度)	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)			2022年度 (令和4年度)			
農業の未来を託せる人づくり	1 未来につなぐ多様な担い手づくり	施策1 担い手の育成・確保	①認定農業者の維持(育成)並びに確保	認定農業者数	126	126	119	119	118	123	130	《○》地域の担い手である認定農業者について、高齢化等で認定の更新を行わなかった農業者もあったが、新規で農業者を認定したことにより、前年度より7名増加となった。	担い手支援事業		
			②新規就農者の確保	認定新規就農者数(累計数)	4	21	8	9	11	14	21	《○》新規就農者の確保をすべく、就農しやすい環境づくりを推進した。また、JA伊勢や三重県とともに就農希望者に対して経営面や技術面での情報提供を行った。さらに、農業・農村に対する理解を深めるため、地元農業者や教育関係者などと一体となり、将来の担い手となり得る子供たちに対し農業体験を実施した。	担い手支援事業 農業体験学習事業		
			③新規就農者育成の取り組みを支援	—	—	—	—	—	—	—	—	《○》JA伊勢の子会社である(株)あぐりん伊勢が、国の補助金を活用してこの研修農場の整備を行う際の事務的支援を行った。	—		
			④多様な農業の担い手を支援	—	—	—	—	—	—	—	—	《○》農福連携に取り組もうとする団体に対して6次産業化支援事業補助金を活用して支援を行った。また、JA伊勢が運営する市民農園の募集等を行い、多様な農業のニーズへの対応を行った。	農業振興事業 6次産業化推進事業		
		施策2 農業の共同化、法人化の推進	①集落の営農の組織化を推進	集落営農組織化、農業経営法人化件数(累計数)	5	10	8	8	8	10	11	《△》令和4年度における集落営農の組織化の実績は無いが、人・農地プランや中間管理事業の説明会等において、組織化の説明を行うことで集落営農の組織化を推進した。	農地中間管理事業		
			②農業経営の法人化を推進		—	—	—	—	—	—	—	《○》令和4年度には1名の農業者において農業経営の法人化が実施された。また、集落営農だけでなく、個人の農業者においても経営の拡大を実施する場合、その後の目標として法人化の説明を行うことで農業経営の法人化を推進した。	—		
		自慢できる農作物づくり	2 地域の特性に応じた農業生産システムづくり	施策3 経営安定対策の充実	①水田農業経営の安定	—	—	—	—	—	—	—	—	《○》国の米政策において、平成30年度より、国・県からの主食用米の生産数量目標の配分は無くなった。しかし、主食用米の過剰生産は米価の下落により農業経営の悪化を引き起こすおそれがあるため、国の制度「経営所得安定対策」において転作の奨励を行った結果、国・県から示された主食用米の生産量の目安57.2%(転作率42.8%)を達成した。	経営所得安定対策推進事業
					②所得安定に向けた助成制度の活用	—	—	—	—	—	—	—	—	—	《○》水田収益力強化ビジョンの2022年度の作付目標及び単収目標が達成できるように産地交付金を活用し、小麦の作付や大豆二毛作等に対して支援を行った。
③金融制度を活用した経営改善の支援	—				—	—	—	—	—	—	—	—	《○》担い手の機械・施設等の導入や更新の際に利用した農業近代化資金、農業経営基盤強化資金の利子補給を行い、農業者の負担軽減を図った。	担い手支援事業	
施策4 農産物の産地化	①営農指導対策への支援			—	—	—	—	—	—	—	—	—	《○》産地交付金において小麦の収量増大に寄与する取り組みに対しての交付金メニューを設定し、支援を行った。また、産地交付金において青ねぎ、いちご、トマト、かぼちゃ、キャベツについて、他の野菜と比較し単価の上乗せを行うことで産地の維持、発展につながるよう支援した。	経営所得安定対策推進事業	
	②野菜産地の維持・育成	—	—	—	—	—	—	—	—	—	《○》新規就農者に対して給付金や補助金を交付することで野菜産地の維持・育成に係る支援を行うとともに、JA伊勢生産者部会等に対して補助金の活用の推進及び調整を実施した。	農産物ブランド化推進事業 担い手支援事業			

□第2次伊勢市農村振興基本計画における指標の実績値・現状値を踏まえた検証について

【テーマ】皆が誇りを持ち“伊勢”を感じる持続可能な農業と農村づくり

目標	施策の基本方針	具体的な振興施策		指標	《一》数値指標なし						評価 (《○》達成、《△》おおむね達成、《×》未達成)	対応する予算事業		
					2017年度 (2016実績値)	2027年度 (目標値)	2018年度 (平成30年度)	2019年度 (令和元年度)	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)			2022年度 (令和4年度)	
自慢できる農作物 づくり	2 地域の特性に 応じた農業生産シ ステムづくり	施策 4	農産物の産地化	③花き産地の維持・育 成	—	—	—	—	—	—	—	《○》 市内の小中学生を対象に、地元花き生産者を講師として迎え入れ、 市内産の花きを活用したフラワーアレンジメントの製作体験を実施 し、市内産花きのPRを行った。	農業振興事業 農業体験学習事業	
				④果樹産地の維持・育 成	—	—	—	—	—	—	—	《△》 新型コロナウイルスやインフルエンザの影響により、例年開催してい た生産者への講習会（座学、実習）が開催できなかったが、JA伊勢や 生産者と果樹産地の維持に関する意見交換等を行った。	—	
				⑤生産性の高い畜産の 振興	—	—	—	—	—	—	—	《△》 JA伊勢や三重県と協力し、飼料用米の栽培推進やWCS用稲の導入 によりJA伊勢管内の飼料自給率の向上を図り、畜産経営の合理化に 向け取り組んだ。 しかし、飼料用米の栽培により飼料の確保を図ったが、市内における 畜産農家との連携には至らなかった。	経営所得安定対策推進事業	
		施策 5	生産・出荷体制の 充実	①生産・出荷施設の充 実を支援	—	—	—	—	—	—	—	—	《△》 JA伊勢の共同出荷施設等の更新計画が無かったため未実施となっ たが、JA伊勢と連携を密に取り、適切な時期に共同出荷施設等の更新 ができるよう、支援内容の検討を行った。	—
				②多様な販路の拡大を 支援	—	—	—	—	—	—	—	—	《○》 市のブランド化農産物に指定している蓮台寺柿といちごについて、伊勢内 宮前おかげ横丁にて販促イベントを実施し、全国から来訪される観光客に 対して伊勢市産農産物の知名度向上に努めた。	農産物ブランド化推進事業
				①立地状況に応じた生 産基盤の整備を推進	—	—	—	—	—	—	—	—	《○》 地元の要望書に基づき、整備を推進した。 また、整備の優先順位や工法的等地元と十分協議しながら、より効果 的な事業推進に努めた。	農道整備事業【市単】 農業用排水路整備事業【市単】 農道整備事業
	3 地域農業を支 える生産基盤づく り	施策 6	農業生産基盤の 整備促進	②農業水利施設の整備 と農業用水の確保を支 援	—	—	—	—	—	—	—	《△》 国営宮川用水第二期事業関連県営事業について、予算に基づき計画的 執行を行い、施工延長が増となった。 また、土地改良区等が行う農業用施設の修繕等の費用に対して補助金 を交付し支援を行った。 農業用ため池等について、災害の影響が大きいため池の堤体改修事業 に向けての実施計画の策定、測量・調査を行った。また、ため池への 水位計設置及び、県が実施する東池改修工事、笹原池の堤体改修工事 に伴う測量設計業務に対し、事業費の一部を負担した。	土地改良事業補助金 県営事業負担金 農村地域防災減災事業	
				①遊休農地の把握と防 止・解消対策	遊休農地の割 合	3.19%	3.02%	3.03%	2.97%	2.91%	2.74%	2.73%	《○》 農業委員会等関係機関と連携し、遊休農地の把握を行った。また、遊 休農地の解消を目的に取り組もうとする農業者への支援を行い、遊休 農地面積は対前年度比で0.01%の減少となった。	遊休農地活用事業
		施策 7	優良農地の確保 と担い手等への 効率的利用促進	②優良農地の確保を推 進	伊勢市農業振 興地域整備計 画における農 用地面積	2,246ha	2,231ha	2,246ha	2,244ha	2,244ha	2,244ha	2,247ha	《○》 農地の集団性を確保し優良農地の保全に努め、農用地区域の面積は対 前年度比で320aの増加となった。	農業振興事業
				③人・農地プランの作 成と農地中間管理事 業の活用を推進	人・農地プラン の作成数	3地域	20地域	12地域	13地域	10地域	13地域	15地域	《○》 実質化された人・農地プランが、「村松町」、「磯町」の2地域で新 たに作成された。 また、主に栗野町、小俣町、北浜・豊浜地区で中間管理機構を活用し た貸付が進んだ。 なお、人・農地プランの作成地域数については、令和2年度に既存の5 プランが1つのプランに統合となったこともあり、減少となっている が、実質的にプランが作成されている地域は増加している。	農業一般経費 農地中間管理事業

□第2次伊勢市農村振興基本計画における指標の実績値・現状値を踏まえた検証について

【テーマ】皆が誇りを持ち“伊勢”を感じる持続可能な農業と農村づくり

目標	施策の基本方針	具体的な振興施策		指標	《一》数値指標なし						評価 (《○》達成、《△》おおむね達成、《×》未達成)	対応する予算事業			
					2017年度 (2016実績値)	2027年度 (目標値)	2018年度 (平成30年度)	2019年度 (令和元年度)	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)			2022年度 (令和4年度)		
自慢できる農作物づくり	3 地域農業を支える生産基盤づくり	施策8	鳥獣被害対策の推進	①有害鳥獣による農産物被害の減少	有害鳥獣の被害額	15,785千円	7,210千円以下	17,566千円	17,728千円	17,565千円	14,581千円	15,249千円	《△》 伊勢市鳥獣被害防止計画に基づき、農地等に出没する有害鳥獣の捕獲を行い、被害のある地域に対し、防護柵等の資材支援を行った。また、地域住民へ適切な獣害防止策の説明を行う等、獣害に強い集落作りに向けての体制整備に取り組んだ。 (R01被害面積1,424a、R02被害面積1,422a、R03被害面積1,423a、R04被害面積1,419a) ※全体の被害面積は減少しているが、被害額が増加しているのは、国が定める被害額算定時に使用する被害作物の単価上昇によるもの。	獣害防止事業	
				②食の安全・安心体制の構築への取り組み	—	—	—	—	—	—	—	—	《○》 国の農業施策である経営所得安定対策の中の産地交付金を活用してWCS（稲発酵粗飼料）栽培の取り組みに対して支援を行った。	経営所得安定対策推進事業	
	4 自慢できる安全・安心な農産物づくり	施策9	安全・安心な食料の供給体制の構築	①ブランド化の方向性を定め、それに向けた取り組みを支援	市内産農産物のブランド化に向けた取り組みへの支援数（累計数）	9件	59件	15件	16件	17件	17件	18件	《△》 令和4年度においては、1件の農産物ブランド化推進補助金の活用があった。また、JA伊勢や生産者部会等とともに、課題や方向性の検討を行い、情報の共有を行った。	農産物ブランド化推進事業	
					②内外に向けて有効な方法での情報発信	—	—	—	—	—	—	—	—	《○》 市長訪問や広報いせ等を活用して市内農産物の情報発信を行った。また、蓮台寺柿及びいちごのPRイベントを実施し、市内産農産物の魅力を発信した。 さらに、市内の観光案内所等に、地産地消の店認定店のチラシを設置することで、地産地消に関する情報発信を行った。	農業振興事業 地産地消推進事業 農産物ブランド化推進事業
					③6次産業化など農産物の加工品開発を推進	—	—	—	—	—	—	—	—	《○》 令和4年度において、6次産業化補助金を活用した支援を1件行うことができた。また今後も活用を推進していくため、各生産者部会等と情報の収集や課題の検討を行った。	6次産業化推進事業
	4 自慢できる安全・安心な農産物づくり	施策10	地域資源としての農産物のブランド化に向けた取り組み	①地産地消をさらに推進	学校給食への地場農産物の提供回数	2回	6回	8回※1 (12回※2)	4回	11回	5回	4回	《△》 市内産農産物を取り入れた給食の実施に対して支援を行った。 ・実施回数内訳：いちご1回、蓮台寺柿1回、青ねぎ2回 ※1単独自校方式 ※2共同調理場方式	地産地消推進事業	
					②農産物の直売活動の充実	民話の駅蘇民・郷の恵「風輪」・サンファームおぼたの来客者数	257,000人	295,000人	206,585人	200,991人	202,429人	194,204人	209,869人	《○》 全般的に各施設で来客者が増加した。特にサンファームおぼたにおいては、JA等の協力もあり来客者数が大きく増加した。	地産地消推進事業 産直施設維持管理経費
					③市内産農産物の地元への流通を促進	—	—	—	—	—	—	—	—	《○》 地元の農業者が市内農産物直売施設に農産物を出荷できるよう、関係機関と連携して推進を図った。	—
					④農業体験や市内産農産物の学校給食への使用による食育の推進	農業体験学習実施校数	11校	18校	15校	19校	3校	8校	9校	《△》 市内小学校に対して、農業体験（稲作（田植え）、蓮台寺柿、横輪いも、青ねぎ）の機会を積極的に提供し、自然の恩恵と食に関わる人々の活動の重要性について理解が深まるよう取組を行った。 ただし、雨天等によるほ場状態不良のため、稲作（稲刈り）の農業体験は中止となった。 また、市内小中学校の、市内産農産物を取り入れた給食の実施に対して支援を行った。	農業体験学習事業 地産地消推進事業

□第2次伊勢市農村振興基本計画における指標の実績値・現状値を踏まえた検証について

【テーマ】皆が誇りを持ち“伊勢”を感じる持続可能な農業と農村づくり

目標	施策の基本方針	具体的な振興施策	指標	《一》数値指標なし							評価 (《○》達成、《△》おおむね達成、《×》未達成)	対応する予算事業	
				2017年度 (2016実績値)	2027年度 (目標値)	2018年度 (平成30年度)	2019年度 (令和元年度)	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)			
自然と共存できる魅力ある農業・農村づくり	5 地域資源を活用し地域が一体となった魅力ある農村環境づくり	施策13 地域資源と農村コミュニティの適切な保全	①地域資源を活かした多彩な交流の場を提供	—	—	—	—	—	—	—	—	《○》 三郷山の高架水槽、階段の維持補修を行った。また音無山、三郷山等の剪定等適切な管理を行い、交流・ふれあいの場を提供した。	環境保全林管理経費
			②祭り・伝統行事等継承への取り組みを支援	—	—	—	—	—	—	—	—	《△》 農業に由来する祭り・行事等の継承活動の聞き取りを行った。	—
		施策14 多面的機能支払交付活動	①共同活動への支援	多面的機能支払交付金活動組織化数	26	30	28	26	26	27	27	《○》 27組織に対し共同活動への支援を行った。	多面的機能支払交付金事業
		施策15 都市住民と連携・交流の促進	①都市住民と連携・交流の促進	—	—	—	—	—	—	—	—	《○》 JA伊勢と連携し、市民農園の利用者の募集および啓発の促進を図った。また、特産品のPRを通じて、生産者と消費者の連携・交流の場づくりを行った。	農業体験学習事業
			②観光施策との連携を推進	—	—	—	—	—	—	—	—	《△》 実施には至らなかったが、観光施策との連携について農業者と共に協議を行い、市内産農産物の情報発信について検討を行った。	—
		施策16 農村空間の総合的な整備促進	①農道・集落道路の維持・保全	—	—	—	—	—	—	—	—	《○》 地元の要望書に基づき、整備を推進した。また、パトロール等により施設の保全に努めた。	農道整備事業【市単】
			②排水施設の維持・保全	—	—	—	—	—	—	—	—	《○》 地元の要望書に基づき、整備を推進した。また、パトロール等により施設の保全に努めた。	農業用排水路整備事業【市単】 農業用排水路整備事業
			③農村の保全・防災対策を推進	—	—	—	—	—	—	—	—	《○》 事業実施に向け、東大淀排水機場の事業計画修正及び鹿海、東豊浜、三津排水機場の事業計画書を作成した。また、県営事業にて新田排水機場改修工事、亀池、西排水機場の設計を実施し長寿命化を予定通り推進した。他の排水機場については適正化事業を実施した。防災重点農業用ため池について、改修工事に向けて西池の計画書作成等、西世古池、新池、長谷池の豪雨耐性、劣化状況調査を行った。東池・西池に水位計を設置した。また県営事業にて、笹原池の改修工事実施に向けた測量設計に着手し、東池改修工事及び朝熊頭首工改修工事を完了した。	農村地域防災減災事業 排水機維持管理経費 排水機維持管理経費（機能更新）

□第2次伊勢市農村振興基本計画における指標の実績値・現状値を踏まえた検証について

【テーマ】皆が誇りを持ち“伊勢”を感じる持続可能な農業と農村づくり

目標	施策の基本方針	具体的な振興施策	指標	《一》数値指標なし						評価 (《○》達成、《△》おおむね達成、《×》未達成)	対応する予算事業		
				2017年度 (2016実績値)	2027年度 (目標値)	2018年度 (平成30年度)	2019年度 (令和元年度)	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)			2022年度 (令和4年度)	
自然と共存できる 魅力ある農業・農 村づくり	5 地域資源を活用 し地域が一体と なった魅力ある農 村環境づくり	施策 17 森林の保全と育 成	①森林機能の増進など を支援	森林の間伐率	26.90%	28.00%	29.76%	30.71%	32.19%	33.93%	35.12%	《○》 森林経営管理の全体計画に基づき経営管理に向けての管理界明確化を 行った。また、昨年度管理界を確定した地区（三郷山周辺）について 集積計画を作成した。	森林整備事業（農林水産課） 森林経営管理事業
			②暮らしを守る森林づ くりを推進	—	—	—	—	—	—	—	—	《○》 防風保安林である松林の害虫防除や下草刈り及び間伐を行い計画的な 保全を図った。また危険木伐採を行った。	森林整備事業（農林水産課）
			③市民との共生の森林 づくりを推進	—	—	—	—	—	—	—	—	《△》 交流施設として整備した横輪町「郷の恵風輪」を核とした宮山を活か し、市と地元が連携し、桜まつり、ホテル鑑賞会などの自然鑑賞会、 また絆の森は環境フェアにおいて森林学習を実施等予定されていた が、新型コロナウイルス感染防止等の観点から中止となった。絆の森 周辺で環境フェアにおいて森林学習を実施した。	環境保全林管理経費
			④里地里山の保全・活 用を支援	—	—	—	—	—	—	—	—	《○》 音無山、絆の森、三郷山、横輪環境保全林といった里山において草 刈、剪定等、地元市民等との協働による保全を図った。 地元組織による里地を活用した活動への支援を行った。	環境保全林管理経費 多面的機能支払交付金事業